

## 南通遺跡 第34地点

遺跡名（よみがな）	南通遺跡（みなみどおりいせき）
調査地点	第34地点
主な時代	縄文時代中期後半（約4,900～4,500年前）、弥生時代後期～古墳時代初頭（約2,000～1,700年前）
調査地	富士見市針ヶ谷二丁目36番5・10・21
調査面積	1,616.38㎡のうち、約500㎡
調査期間	令和7年5月29日～令和7年8月13日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 縄文時代住居跡1軒、弥生時代後期～古墳時代初頭住居跡11軒、弥生時代後期環濠1条、 など</p> <p>【出土した主な遺物】 縄文土器、石器、弥生土器</p> <p>【概要】</p> <p>針ヶ谷地区の南通遺跡は、柳瀬川低地に面する台地の縁辺部に位置しています。現在までの調査によって、弥生時代後期～古墳時代初頭の住居跡300軒以上や、集落を囲む環濠が発見されるなど、約2,000年前の弥生時代後期を中心とした大規模な環濠集落があったことがわかっています。</p> <p>今回の調査は、針ヶ谷小学校から北に100mほどの地点で行われました。弥生時代後期～古墳時代初頭の集落の北西端に位置します。</p> <p>当該期の遺構として、調査区中央部に環濠1条と、その内外に住居跡が確認されました。環濠は、外敵から集落を守るための防御施設として掘られた溝と考えられています。環濠は廃絶時期が比較的早く、環濠の外で確認された住居跡はどれも、環濠が廃絶した後につくられたことがわかりました。</p> <p>そのほかに、縄文時代中期後半（約4,900～4,500年前）の住居跡が検出されており、住居跡入口部には土器を埋設する埋甕が確認されました。</p>



南通遺跡第34地点 全景写真

# 南通遺跡 第34地点



調査風景



埋設土器を伴う縄文時代中期の住居跡



縄文時代住居跡遺物出土状況 1



縄文時代住居跡遺物出土状況 2



縄文時代住居跡の入口部に埋設された土器（埋甕）



弥生時代後期～古墳時代初頭の住居跡



弥生時代後期～古墳時代初頭住居跡遺物出土状況 1



弥生時代後期～古墳時代初頭住居跡遺物出土状況 2

## 南通遺跡 第34地点



弥生時代後期～古墳時代初頭住居跡遺物出土状況 2



環濠遺物出土状況



環濠断面（深さ約 1.1m、幅約 1.5m）